

LEX-ZEROの3D品

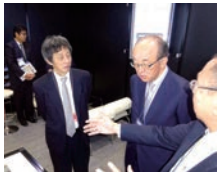
日本製造が初受注

日本製造は熱膨張ゼロ合金、LEX-ZERO（RO）ックス・ゼロの3D積層造形品を初受注した。2018年

10月の発売以来、オンライン製品としてサンプル出荷していた。宇宙開発を含め、軽量化を求められる高精度

カメラなど精密部品向けなどに採用を働き掛けている。鷺尾勝社長は加工が複雑なほど有利とし、今後5年間で

鷺尾社長(左)の説明を聞く柿木JEFFHD社長



1億円以上の売上を目指す考えだ。

LEX-ZEROの3D品は過去1年間でサンプルを販売し、1000万円弱の売上は

あったが、ここに至って初めて正式な受注に結び付いた。素材開発の技術力、設計の技術力、造形のノウハウを生かして提案しており、来年も新規受注を見込む。

業務用の高精度なカメラの部品など歪みが許されない部品などに使われるという。画像撮影の衛星など打ち上げコスト削減のための軽量化、膨張防止などの目的で需要はあるとみている。

4日から出展した高能金属展では3Dで作った複雑なサンプルを展示している。従来の切削加工に比べて手間を省け、コストが低く、材料の歩留まりが高いなどの利点を売り込んでいる。